

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 17 陣の記録

科学技術交流 対象国：シンガポール、タイ

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、シンガポールから大学生 16 名、タイから高校生及び引率者 20 名が、2018 年 12 月 11 日～12 月 18 日の日程で来日し、「科学技術交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、都内での視察、日本理解講義の聴講後、国別のグループに分かれ、シンガポールは宮崎県を訪問し、タイは北海道を訪問しました。テーマに関連する施設や地域の産業の視察、学校訪問、関係者や同世代の若者とテーマに関する意見交換や交流を行いました。また、ホームステイ等の文化体験を通じて日本の魅力に直接触れる機会を持ちました。両グループは、日本人との交流を通して日本についての理解を深め、各々の関心事項や体験、日本の魅力について SNS を通じて対外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】 2 か国・36 名 （内訳）シンガポール 16 名、タイ 20 名

【訪問地】 東京都、北海道（タイ）、宮崎県（シンガポール）

2. 日程

	シンガポール	タイ
12 月 11 日（火）	来日、【オリエンテーション】	
12 月 12 日（水）	【日本理解講義の聴講】国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター、サービスインテリジェンス研究チーム 研究チーム長 西村 拓一 氏 【最先端技術視察】日本科学未来館	
	【テーマ関連の視察】 産業技術総合研究所	【テーマ関連の視察】 ソニー・エクスプローラ・サイエンス
12 月 13 日（木）	東京都より宮崎県へ移動 【表敬訪問】宮崎県副知事	東京都から北海道へ移動 【最先端技術視察】 札幌ドーム
12 月 14 日（金）	【学校交流】宮崎大学 【企業視察】株式会社教育情報サービス (KJS) 【ホームステイ】宮崎市周辺	【学校交流】独立行政法人国立高等専門学校機構 苫小牧工業高等専門学校 【ホームステイ】苫小牧市内
12 月 15 日（土）	【ホームステイ】	
12 月 16 日（日）	【ホームステイ】、【地域住民・関係者との歓送会】 【ワークショップ（報告会準備）】	

12月17日（月）	地方都市から東京都へ移動 【成果報告会】	
12月18日（火）	帰国	【テーマ関連の視察】 国立科学博物館、帰国

3. プログラム記録写真

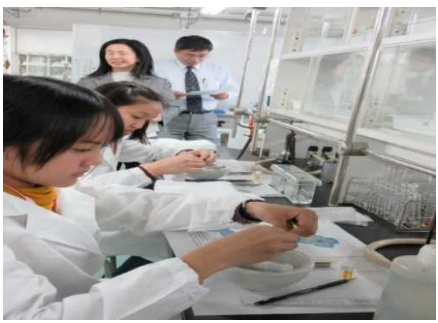
【シンガポール・タイ】（東京都）

	
12月11日【オリエンテーション】	12月12日【日本理解講義の聴講】
	
12月12日【テーマ関連の視察】 産業技術総合研究所	12月12日【最先端技術視察】 日本科学未来館
	
12月17日【成果報告会】	

【シンガポール】（宮崎県）

	
12月13日【表敬訪問】宮崎県副知事	12月14日【学校交流】宮崎大学
	
12月14日【学校交流】宮崎大学	12月14日【企業視察】 株式会社教育情報サービス
	
12月16日【地域住民・関係者との歓送会】	

【タイ】（訪問地：北海道）

	
12月13日【最先端技術視察】札幌ドーム	12月14日【学校交流】 苫小牧工業高等専門学校

	
12月14日【学校交流】 苫小牧工業高等専門学校	12月16日 【地域住民・関係者との歓送会】
	
12月16日 【地域住民・関係者との歓送会】	12月16日 【ワークショップ（報告会準備）】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ シンガポール大学生

講義は、私の専門性に関連していてとても興味を持ちました。日本での私の専門分野は、シンガポールでは考え及ばぬ程の進歩を遂げており、日本で研究活動ができればと願います。学校交流での研究室視察も、目を見張るものでした。シンガポールの大学でも同様の実験が行われていますので、日本とシンガポール間での合同研究も可能であろうと感じました。KJSで紹介のあった画像圧縮技術は、大変興味深く、新たな技術刷新のアイデアが浮かんで来ました。日本の職場文化も興味深いものでした。それから、私のホストファミリーは私たちを心から歓迎して下さい、言葉の壁を越え、日本文化や暮らしの作法についても学ぶことができました。

◆ シンガポール大学生

日本での人工知能についての講義は洞察性に満ちたものであり、AI 専門家と最終使用者を結ぶインターフェイスとしての技術について、学ぶことができました。従来の概念において、技術とは最終使用者が専門家によって定められた通りの目的を達するための道具でありました。これに対し日本では、専門家が使用者と定期的に系統的手法で話し合いを持ち、ユーザーの経験を斟酌しながら技術開発を行うという新たな手法をしています。この考え方は、広く科学全般、特に人々へのサービス分野の技術、より良い商品提供に適用できるのではないかと思います。都会に暮らす者として、私は田舎暮らしに憧れており、田舎のゆっくりとしたペースの暮らしでは、何事もより深く考えたり、様々な発見ができると考えていました。しかし、学校交流を通じ、田舎に生活する方々には私とは逆の願望があることを知りました。都会の便利な生活に憧れる一方で、山崩れや洪水等自然災害に直面する田舎での生活の現実があります。双方が満足するには、

都会の利便性と技能技術者の理想郷である穏やかな田舎暮らしのバランスが必要だと気付きました。ホームステイでは、普遍的に大切な事柄、平和を切望し家族を大切に思う気持ち等については、言葉の壁を越えて通じ合うことを学びました。また、昨今世界情勢が以前の様に安全・安定したものでなくとも、日本の人々は外の世界に非常に興味を持っていることを知りました。

◆ タイ高校生

AI の講義では、講師ご自身の好きな社交ダンスを用いて科学を教えてくれ、大変興味深かったです。ダンスの向上のため、動きを感知するセンサーを体に取り付けていました。教科書より正確であり、ダンスによるケガの防止についての医学的分析にも使われていました。苫小牧工業高等専門学校では、すべての面で万全の体制が整っていることに感動しました。設備に至るまで、行き届いた教育環境でした。また、学生の就職活動のための企業説明会も催されていました。重要なことは、学生自らが考えたことを実践することに重きを置いている点でした。日本で訪問した日本科学未来館やソニー・エクスプローラ・サイエンスでは、易しい言葉で実際にゲームを体験することにより、科学はすべての人が理解できるということが分かりました。そして一番楽しみにしていたホームステイでは、日本人の家族と実際に一緒に過ごし、日本人がどのような生活をしているかを実際に見ることで、家族の皆さんの温かさを感じました。最後に、日本が本当にテクノロジーの街であるということを確認しました。社会の中だけでなく家庭でも、誰もが実際にテクノロジーを活用していました。こうしたテクノロジー文化は、より暮らしやすい社会のために、様々な場面に調和して、使用できるものとして作る必要性があることも気づきました。

◆ タイ高校生

講義は、最先端科学技術の内容以外に最初に感動したことは、イヤホンガイドをつけてタイ語の通訳を聞いたことです。本当に役立ちました。学校交流では、熱烈的な歓迎を受けました。苫小牧工業高等専門学校は、タイの職業高校と職業短大の教育に似ていると思いました。しかし、この高専ではタイと違って実習をととても重視した知識を学べるようになっていました。先生は、学生に対して威圧的な態度をとっていませんでした。昼休みに日本人学生と一緒に昼ご飯を食べ、楽しく会話し、日本人の友達を作ることができました。最後に、応援団によるエールで大声と太鼓によるパフォーマンスがありました。大変興奮するようなパフォーマンスでした。このパフォーマンスは、私たち訪日団への安全な日本滞在を祈願するエールだということです。本当にありがとうございました。企業や自治体の訪問でも、熱烈的な歓迎の挨拶や別れの挨拶がありました。ホームステイは最も感動しました。ホストファミリーはとても愛すべき人達でした。日本人には、遠慮という礼儀作法があることに、大変感動しました。ホストファミリーに料理を教わり、人気スポットに連れて行ってもらったり、大変良い経験になりました。また戻って来て家族の皆さんに会いたいです。必ずここに戻って来ると約束します。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 職員（国立研究開発法人産業技術総合研究所）

科学に興味のある学生さん達だったので、真摯に積極的に講義に参加する様子に、感動しました。講義を担当した研究員もとても手ごたえを感じたようで、楽しかったと言っていました。最後に頑張って覚えてきてくれた日本語で挨拶をしてくれて、とてもうれしかったです。

◆ 学生（宮崎大学）

シンガポールの学生と交流し、日本との大きな違いをいくつか発見しました。その中で驚いた点が2つありました。まず、全員2つ以上の言語を流暢に話すことができることに驚きました。私が会話をした学生は、中華系の家系であったため、中国語と公用語の英語を話すことが出来ていました。シンガポールには、シンガポールの英語の訛りや独特な表現があるらしく、彼らは自分たちの英語を「not good English」と言っていました。次に驚いた点は、シンガポールには兵役が2年間あり、兵役が終わった後に大学で勉強するということです。兵役に2年間費やすということは、日本では考えられないことであり、日本で生まれ育った自分にとって現在の環境はとても恵まれていると感じました。「他の国の言語を使うことが出来れば、海外で働くチャンスが増える」と、あるシンガポールの学生が言っていました。海外に出て働く抵抗の無さ、意欲を彼らから感じました。私も海外の学生に負けないように英語を勉強して、将来、国際的に通用するような技術者になりたいと思います。

◆ ホストファミリー（宮崎県）

シンガポールという国を知っているつもりでしたが、実はあまり知らなかったということに気づかされ、私の視野が広がりました。積極的なシンガポールの学生だったので、すぐに仲良くなれて嬉しかったです。経済、生活スタイルは日本とそれほど差はないですが、運転中に人や対向車に道を譲ることのマナーや、知らない人と挨拶を交わすといった、日本特有の礼儀がとても印象的だったようです。

◆ 学生（苫小牧工業高等専門学校）

言葉が通じないのに、日本語の文字の書き方をどう教えたらよいか不安だったけれど、知っている英単語を使ったり、「桃」という字を教える時は、スマホで桃の画像を見せて説明することが出来ました。タイの皆さんは、明るくフレンドリーでした。カタカナで名前を書いて読んであげると、とても喜んでくれて、よかったです。タイ語で私の名前を、筆を使って書いてくれたことが嬉しかったです。

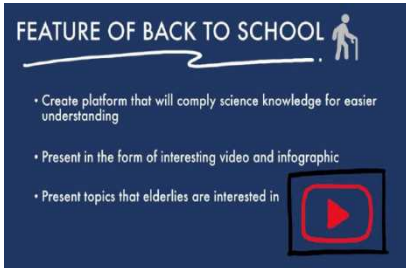
◆ ホストファミリー（北海道）

彼らは若いのに真面目で、とてもしっかりしていて、政治や勉強にとっても興味がありました。科学技術についてもいろいろとお話をしました。小学校での餅つきに参加した時、小学生に大人気になっていました。今回とても良い経験が出来ました。

6. 参加者の対外発信

 Facebook post by Huang Shiyang. The post includes a photo of a group of people in front of a large globe and text in English and Chinese. The English text reads: "Never would have thought that I could understand the science behind the chim science stuffs at Miraikan Museum. It was fun applying what I've learnt in all those lectures".	 Facebook post by Matthew Woo. The post includes a photo of a person in a suit standing in front of a building and text in English and Chinese. The English text reads: "Miyazaki is a beautiful city. If you compared it to Tokyo, it is obviously a country side. However, there are many greenery all around here, and the people are very warm, which gives of a refreshing ambience. If you walk around the city, perhaps you'll feel...".
【シンガポール学生】日本科学未来館館で、自分が勉強した事例が展示されているとは思わず、驚きました。講義で学んだ事が応用されているのは興味深いものでした。	【シンガポール学生】宮崎は美しい街で東京と比べると田舎であります。でも、まわりに緑が多く、人々は暖かく、新鮮な気分を与えてくれます。
 Facebook post by navinthitjarupatai. The post includes a photo of a large globe and text in Thai and English. The Thai text reads: "Asimo คือหุ่นยนต์ที่เคลื่อนไหวได้เหมือนมนุษย์มาก มันคือสิ่งไม่มีชีวิตที่สมบูรณ์แบบเหมือนเล่นเด็ก5ขวบไว้ในบ้าน".	 Facebook post by navinthitjarupatai. The post includes a photo of a large stadium and text in Thai and English. The Thai text reads: "Sapporo Dome สเตเดียมแห่งของทีมเบสบอล Hokkaido Nippon Ham Fighters และทีมฟุตบอล Consadole Sapporo".
【タイ学生】アシモは人間にとってもよく似た動きができるロボットでした。それは最高にカワイイ無生物で、家の中で5歳の子どもを育てるのに似ていました。	【タイ学生】札幌ドームは、プロ野球チーム北海道日本ハムファイターズの本拠地であり、プロサッカーチームの北海道コンサドーレ札幌のホームスタジアムです。このスタジアムは試合に合わせて野球場とサッカー場の入れ替えができ、二つのスポーツの試合日程が重複することなく組まれている施設です。驚異的なイノベーションだと思います。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

Action Plan 1. Video a. We will create a short clip featuring our experiences in JENESYS 2018 b. We can then share this video through the following platforms: i. TV screens in the universities ii. Youtube iii. Social media such as facebook and Instagram Action Plan 2. Booths/ Photo exhibition a. Japanese cultural festival i. NUS (26th Jan) ii. NTU (5th to 6th Feb)	【シンガポール】タイトル「宮崎と私」。 ① 日本（東京及び宮崎）での経験が詰まったフィルムを編集し、有益な動画を作成し、作品をYoutube 及び SNS にアップします。また、構内でも放送します。 ② NUS (シンガポール国立大) 及び NTU (南洋理工大学) にて近く開催される、日本関連の展示イベントで、今回の成果の情報提供を行います。 a) 日本文化祭 2019 年 1 月 26 日 於：シンガポール国立大学 (NUS) b) 日本文化祭 2019 年 2 月 5～6 日 於：南洋理工大学 (NTU) シンガポールの他大学、日本関連団体及び同コミュニティの協力を得て、私たちの体験を題材とした上記作品の制作・上映を実行します。
 BACK TO SCHOOL PROJECT PRESENTED BY Thai Students Attending JENESYS 2018  FEATURE OF BACK TO SCHOOL • Create platform that will comply science knowledge for easier understanding • Present in the form of interesting video and infographic • Present topics that elderlies are interested in	【タイ】タイトル「学校に戻ろうプロジェクト」。 高齢者から子や孫の若い世代へ科学技術の知識を伝えることで、社会全体に良い影響を与えることができるよう、高齢者に、容易に理解できる科学技術の知識を普及するためのプラットフォームを作ります。高齢者が興味を持つ話題、ビデオやインフォグラフィックの形式で、提供します。